基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻（専門職大学院）の設置								
フリガナ設置者	がっくほけん ぶじたがくえん 学校法人 藤田学園								
フリガナ大学の名称	フジタイカダイガクダイガクイン 藤田医科大学大学院（FUJITA HEALTH UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL）								
大学本部の位置	愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98								
大学の目的	「独創一理」の建学の理念にもとづき、真理を探究する独創的研究によって学術水準の向上に寄与する研究者を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	病院経営学・病院管理学・医療政策学・医学の知見と国際社会に通用する思考力に基づき、健全な病院経営の実現のために、病院経営に関する病院経営学、病院管理学、医療政策学に関する高度専門知識の基盤を固め、健全な病院経営のための課題発見および分析能力ならびに実践能力を有する高度の専門職人材を育成								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医学研究科 [Graduate school of Medicine] 病院経営学・管理学専攻 [Master's Course in Hospital & Health Administration]	1.5年	10人	—	20人	病院経営学・管理学修士（専門職） 【Master of Hospital & Health Administration】	令和5年4月第1年次	愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98	
	計		10	—	20				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学研究科 病院経営学・管理学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
		13科目	4科目	0科目	17科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	医学研究科 病院経営学・管理学専攻（専門職大学院）	12人 (12)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	17人 (17)	0人 (0)	6人 (6)
		計	12 (12)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	— (—)
	既設	医学研究科 医科学専攻（修士課程）	17 (17)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	66 (66)
		医学専攻（博士課程）	98 (98)	78 (78)	124 (124)	55 (55)	355 (355)	0 (0)	4 (4)
		保健学研究科 保健学専攻（修士課程）	41 (41)	29 (29)	28 (28)	0 (0)	98 (98)	0 (0)	136 (136)
医療科学専攻（博士後期課程）		25 (26)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	28 (29)	0 (0)	1 (1)	
計	181 (182)	111 (111)	152 (152)	55 (55)	499 (500)	0 (0)	— (—)		
合計	193 (194)	114 (114)	154 (154)	55 (55)	516 (517)	0 (0)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員	617人 (617)	352人 (352)		969人 (969)				
	技術職員	3,648 (3,648)	100 (100)		3,748 (3,748)				
	図書館専門職員	6 (6)	4 (4)		10 (10)				
	その他の職員	224 (224)	233 (233)		457 (457)				
計	4,495 (4,495)	689 (689)		5,184 (5,184)					

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【借地(借用年)】 豊明校地： 17,202.82㎡(30年) 中川校地： 5,471.39㎡(30年) 七栗校地： 5,792.18㎡(3年) 岡崎校地： 29,717.19㎡(10年)				
	校 舎 敷 地	237,929.20 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	237,929.20 ㎡					
	運 動 場 用 地	46,351.00 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	46,351.00 ㎡					
	小 計	284,280.20 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	284,280.20 ㎡					
	そ の 他	157,300.31 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	157,300.31 ㎡					
	合 計	441,580.51 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	441,580.51 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		112,708.70 ㎡ (112,708.70 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	112,708.70 ㎡ (112,708.70 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	「大学全体」				
	72室	64室	128室	3室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		医学研究科 病院経営学・管理学専攻			12 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	「研究科単位で の特定不能なた め、大学全体の 数」		
	医学研究科 病院経営学・管理学 専攻	170,551〔77,527〕 (170,551〔77,527〕)	3,553〔1,881〕 (3,553〔1,881〕)	3,299〔1,875〕 (3,299〔1,875〕)	2212 (2,212)	17,009 (17,009)	29 (29)			
	計	170,551〔77,527〕 (170,551〔77,527〕)	3,553〔1,881〕 (3,553〔1,881〕)	3,299〔1,875〕 (3,299〔1,875〕)	2212 (2,212)	17,009 (17,009)	29 (29)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		「大学全体」				
		3,364.49 ㎡	298	167,225冊						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		3,344.71 ㎡	弓道場							
経 費 の 見 積 び 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位で算 出不能なため学 部との合算 図書購入費には電 子ジャーナル、 データベースの整 備費(運用コスト含 む)を含む
		教員1人当り研究費等		249千円	249千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		55,897千円	55,897千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	157,886千円	157,886千円	157,886千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	228,956千円	228,956千円	228,956千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		900千円	750千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			経常的経費については、学生納付金以外に法人本部からの繰入金							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	藤田医科大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍		愛知県豊明市沓掛 町田楽ヶ窪1番地98	
	医学研究科									
	医科学専攻	2	5	—	10	修士(医科学)	0.70	令和2年度		
	医学専攻	4	52	—	208	博士(医学)	0.78	平成30年度		
保健学研究科										
保健学専攻	2	50	—	100	修士(保健学)	1.17	平成13年度			
医療科学専攻	3	8	—	24	修士(看護学)					
博士(医療科学)						1.20	平成27年度			
医学部						1.00				
医学科	6	120	—	720	学士(医学)	1.00	昭和47年度			

既設大学等の状況	医療科学部						1.04		愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 平成31年度入学定員増(35人)
	医療検査学科	4	140	—	560	学士(医療検査科学)	1.01	平成31年度	
	放射線学科	4	90	—	360	学士(診療放射線技術学)	1.06	昭和62年度	
	保健衛生学部							1.02	
	看護学科	4	135	—	540	学士(看護学)	1.02	平成31年度	
	リハビリテーション学科							1.02	
	理学療法専攻	4	70	—	280	学士(理学療法学)	1.00	平成31年度	
作業療法専攻	4	45	—	180	学士(作業療法学)	1.07	平成31年度		
附属施設の概要	<p>名称：藤田医科大学病院 目的：診療 所在地：愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 開院年月日：昭和48年5月29日 土地面積：281,627.19 m² 建物面積：延 151,859.42 m² 病床数：1,376 床</p> <p>名称：藤田医科大学ばんだね病院 目的：診療 所在地：愛知県名古屋市中川区尾頭橋三丁目6番10号 開院年月日：昭和46年10月1日 土地面積：8,175.04 m² 建物面積：延 21,829.18 m² 病床数：370 床</p> <p>名称：藤田医科大学七栗記念病院 目的：診療 所在地：三重県津市大鳥町424番地の1 開院年月日：昭和62年4月20日 土地面積：122,061.09 m² 建物面積：延 13,881.88 m² 病床数：218 床</p> <p>名称：藤田医科大学総合医科学研究所 目的：医学分野の研究 所在地：愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 開設年月日：昭和47年4月1日 土地面積：978.24 m² 建物面積：延 3,261.44 m²</p> <p>名称：藤田医科大学中部国際空港診療所 目的：診療 所在地：愛知県常滑市セントレア一丁目1番地旅客ターミナルビル2階 開設年月日：平成17年2月1日 建物面積：延 171.84 m²</p> <p>名称：藤田医科大学地域包括ケア中核センター 目的：医療・福祉 所在地：愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 開設年月日：平成25年2月1日 建物面積：延 122.05 m²</p> <p>名称：藤田医科大学岡崎医療センター 目的：診療 所在地：愛知県岡崎市針崎町字五反田1番地 開院予定年月日：平成32年4月1日 土地面積：29,717.19 m² 建物面積：延 37,970.24 m² 病床数：400 床</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(医学研究科 病院経営学・管理学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎専門科目	リーダーシップ・ガバナンス	1前	1			○			2		1			オムニバス
	病院経営戦略論	1前	1			○			3					オムニバス
	財務会計論・経営分析・コスト分析	1前	1			○			1	1				オムニバス
	診療報酬・施設基準・関連法規	1前	1			○			1	1				オムニバス
	DPC・診療情報分析論	1前		1		○			1	1				オムニバス
	医療情報・電子カルテ	1後	1			○			2	1				オムニバス
	医薬品・医療材料管理	1後	2			○			1					兼1 オムニバス
	病院設計・施設設備	1後	2			○			2					兼1 オムニバス
	医療機能評価・JCI	1前		1		○			1					オムニバス
	地域医療・医療マーケティング	1後	1			○			1		1			オムニバス
	医療の質管理・患者安全・倫理	1前	2			○			2					オムニバス
	医療制度概論（医療法）・保険医療制度	1前	2			○			3					オムニバス
	医療産業論	1後	1			○			1	1				兼1 オムニバス
	応用専門科目	病院経営の実際・病院再編統合	2	2				○		3				
	実践的に考える組織・人材マネジメント	2	2				○		1					兼2 オムニバス
	多視点から考える総合経営	2	2				○		1					兼2 オムニバス
	病院経営学・管理学課題研究	1～2通	8				○		3	2				
合計（17科目）		—	29	2					12	3	2	0	0	兼6
学位または称号	病院経営学・管理学修士（専門職）	学位又は学科の分野			医学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
修了要件は、必修科目・選択科目を含んで30単位以上を修得すること。								1学年の学期区分				2期		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				90分		

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科医療経営・管理学専攻(専門職大学院))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目 リーダーシップ・ガバナンス	<p>(概要) 医療は公益性の高い社会的共通資本であり超高齢化社会により社会からの需要はますます高くなっている。いっぽうで診療報酬の切り下げ等、医療を取り巻く環境は厳しい。そのため、地域に選ばれ質の高い医療を提供し続ける病院には、病院長の優れたリーダーシップと社会的に健全な病院経営を規律する仕組みが有効に機能するためのガバナンスが経営の根幹である。</p> <p>本科目では病院経営を担う病院長および経営幹部に最も重要な要素である病院経営者としてのリーダーシップと組織ガバナンスについての理論と実際について、ディスカッション形式により体系的に学習し、修得することを学習目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 小松本 悟/3回) リーダーシップと経営者としての心構え 本講義は前半において「リーダーシップと経営者としての心構え」と題し、病院経営者が修得すべきリーダーシップの理論と、足利赤十字病院の経営において実践した事例に基づいた経営者としての心構えについて講義形式とディスカッション形式により体系的に学ぶ。 リーダーシップとは、1)投入した資源よりも大きなものを生み出す生産体をつくること、2)あらゆる決定と行動において、今必要なものと将来必要なものを調和させることの2つである。本講義ではこれらのリーダーシップに係る定石について体系的に整理し、目指すリーダー像や、次の時代に求められる新しいリーダー像とその資質について講義形式とディスカッション形式によって、体系的かつ実践的に学ぶ。</p> <p>(13 渋谷 明隆/4回) 組織ガバナンス 病院は医師や医師以外の他の医療職等の多くの職員が動いて初めて機能する労働集約型企業体である。さらに「時代に選ばれる病院」のために、病院経営者は、「ビジョン」と「ゴール」を設定し、常に最も高い価値ある医療を継続して提供し続けなければならない。本講義では医療経営の目標である医療の付加価値の増大に向けたフレームワークおよび文化の醸成までといった病院組織に係るガバナンスについての考え方と実践方法を学ぶ。 本講義では、医療経営で直面するガバナンスに関する問題について、ある状況下で実際に起こった具体的な出来事を取り扱う「病院経営のケース」に基づいた講師と受講生同士による議論を反復して訓練する。</p> <p>(7 藤江 里衣子/1回) 組織の中でのコミュニケーション 組織が機能していく上で重要になるのが、コミュニケーションである。組織のコミュニケーションのあり方は、その組織の「雰囲気」を作り出す。近年、心理的安全性という言葉も注目されているが、そのような職員にとって安心できる雰囲気を醸成するためには、具体的なコミュニケーションスキルのみでなく、根底にある他者への姿勢が重要となる。 本講義では、医療の場におけるコミュニケーションの特徴を、その基本となる姿勢・態度に焦点を当てて理解する。それを踏まえ、病院組織においてコミュニケーションが果たす役割や、病院経営者が職員に的確に伝えるための技法について講義形式およびディスカッション形式にて行う。</p>	オムニバス方式
専門科目	基礎科目 病院経営戦略論	<p>(概要) 病院を経営する専門人材は、医療を取り巻く制度・政策の動向や、国内外における医療技術の進歩、医療ニーズの変化等を把握し、病院の使命を確立し、その意義を周囲に説明することで組織を主導する能力が必要である。特に病院経営者が複雑な病院環境の変化を的確にとらえ、時代の求めに応じた自院の地域における位置づけを確立し、その意義を病院職員にわかりやすく説明する戦略的思考能力が求められている。</p> <p>本科目では、こうした能力を修得するために、病院の使命と経営目標をどのように定めるか。また、その経営目標を実現していくための病院経営戦略を策定する際のフレームワークを修得することを目的とする。</p> <p>授業は担当教員による講義と受講者による討議とで構成する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(13 渋谷 明隆/4回) 経営戦略論 経営環境を把握し、病院の使命を確立し、その意義を説明することができる能力を養成するため、病院の経営戦略に係る戦略と組織の基礎および病院における特性について、ある状況下で実際に起こった具体的な出来事を取り扱う「病院経営のケース」に基づき、講師と受講生同士が対話を進めながら進行する手法(ケースメソッド方式)を通じて、病院経営戦略に関する分析力、洞察力、戦略構築力、論理的思考力等、病院経営者に必要な実践的能力を修得する。</p> <p>(15 斐 英洙/2回) 経営戦略的思考 病院経営の基本的枠組みである病院全体の活動の方向性を決定し、実践するための体制づくりである経営戦略の考え方について学ぶ。特に病院経営者に求められる「経営戦略的思考」を構成する医療経営に係る戦略目標および事業計画の作成、環境分析、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コミュニケーション等の理論、組織全体としての最適化を図るための組織体制、オペレーション戦略、経営戦略における計画・実行・評価それぞれの手法について学ぶ。</p> <p>(5 飯塚 勝美/2回) 産業医の観点から、本講義では従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する健康経営の戦略および目標設定ならびに評価方法等について、好事例を基にした考え方とその実践について教育を行う。本講義ではゲストスピーカーによる事例紹介を含めた講義およびディスカッション形式にて行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科医療経営・管理学専攻(専門職大学院))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基礎科目	財務会計論・経営分析・コスト分析	<p>(概要) 病院経営を取り巻く環境は、診療報酬の切り下げや医療費の増加抑制政策、医療技術の高度化、高額医療の増加等により厳しい環境が将来にわたり続いていく。このため財務の観点から病院経営の現状を把握し、経営改善や中長期的なゴールに向けた取り組みが必要不可欠である。</p> <p>本講義では、病院経営者が安定的経営を達成するために必要な病院会計に関する知識および病院経営を財務の観点から適切に把握するための経営指標について学ぶ。さらにこれらの病院経営指標を用いた具体的な経営戦略の策定方法について講義形式とディスカッション形式を通じて理解を深めていく。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(16 平木 秀輔/7回)</p> <p>病院会計準則にしたがって財務諸表の基礎知識である貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書のしくみについて学ぶ。特に病院会計における関連規則やルール、医薬品・診療材料等の棚卸資産、不動産等の固定資産、人件費、税金等の会計知識のほか、経営情報マネジメントとしての管理会計・原価計算の考え方や手法について学ぶ。</p> <p>また、財務諸表等の基礎的知識を用いて、1)収益関連指標、2)支出関連指標の分析について演習形式で行う。</p> <p>本講義では、自院の資料を用いてこれらの指標を分析し、学生による分析結果の発表を順次行い、他の学生・教員とのディスカッションを重ねることで、自院の財務的経営課題を深掘りし、病院経営戦略を自院の職員や経営幹部職員に説明できるプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>(1 小松本 悟/1回)</p> <p>病院経営指標の読み方と経営戦略</p> <p>本講義では、病院経営指標を用いて具体的な経営戦略を策定するための実践方法について学ぶ。病院経営においては医療法や診療報酬体系をはじめとした規則や規定等に準拠して運営されていることを踏まえた病院経営の見かたについて、実例を用いて学ぶ。特に経営指標を向上させるために、収益性の向上と支出見直しの優先順位の考え方や、病院運営におけるプロセスやシステム等を根本から見直す「クロス・マニファクチュアリング」手法等、「リーダーシップ・ガバナンス」で学んだ病院経営者としての心構えに基づいた実戦的経営戦略について講義およびディスカッション形式により修得する。</p>	オムニバス方式
専門科目 基礎科目	診療報酬・施設基準・関連法規	<p>(概要) 病院経営における収益の根幹である診療報酬は全体として医療費抑制の方向に働いているいっぽうで、消費税増税等による人件費、医療材料費、経費等の増分を賄うために医業収益を高めることは容易ではない。このため診療報酬に関する制度である「診療報酬制度」、「施設基準」、「保険医療機関および保険医療療養担当規則」の基礎的知識とその重要性を十分に理解するとともに、自院の施設基準を見直し、一部加算の返上も含めた医業収益確保の戦略を修得することは、病院経営者にとって必要不可欠の知識である。</p> <p>本講義では、「診療報酬制度」の基礎的知識を体系的に修得した上で、「診療報酬制度」の動向を踏まえた主要な診療報酬項目に関する「施設基準」の算定要件、「保険医療機関および保険医療療養担当規則」について実践的な講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(17 長面川さより/5回)</p> <p>診療報酬制度および関連法規の基礎的知識について講義形式で学ぶ。</p> <p>具体的には「医療法・医師法」、「診療報酬制度」、「健康保険法(保険医療療養担当規則)」について取り扱う。</p> <p>さらに診療報酬点数の詳細(入院基本料、管理加算)、「診療報酬制度」の動向を踏まえた、主要な診療報酬項目に関する「施設基準」の算定要件、「保険医療機関および保険医療療養担当規則」について事例に基づいた講義を行う。特に院内組織体制構築が重要となる項目及び地域連携体制に関する項目など各部署との関連項目、急性期病院で導入されているDPC制度の基礎および包括評価部分と出来高評価部分等の支払方式ごとの主要な診療報酬項目について学ぶ。</p> <p>(1 小松本 悟/3回)</p> <p>診療報酬に関する制度である「診療報酬制度」、「施設基準」、「保険医療機関および保険医療療養担当規則」の基礎的知識を踏まえ、自院の施設基準の見直し方および施設基準から見た医業収益確保の戦略について、実例に基づいた講義を行う。</p> <p>具体的には、入院診療については、入院基本料等とDPC機能評価係数との関連による医業収益へのインパクトや、病院経営者が理解しておくべき施設基準の届出に係る病院運営への影響の実際、厚生局による適時調査による返還金のインパクトの実際と病院経営者の役割について学ぶ。</p> <p>また、入院診療については、入院単価および関連指標である、病床回転率、病床稼働率・病床利用率、入院稼働額、空床管理の基本的考え方および算出方法を講義形式で学ぶ。外来診療については、外来単価および関連指標である入院外来比、新患比率、地域医療支援病院の承認要件、紹介率・逆紹介率の基本的考え方および算出方法を講義形式で学ぶ。</p> <p>さらにこれらの知識を理解した上で入院単価、入院診療収入の向上、外来単価および外来診療収入の向上に向けた、病院経営で実際に行う具体的方策について、ディスカッション形式で修得する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科医療経営・管理学専攻(専門職大学院))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目 DPC・診療情報分析論	<p>(概要) 病院経営において、医業収益を高める方法の一つである「入院診療単価の向上」の方策として、DPCについて理解し、収益改善方法の実際について修得する。</p> <p>DPC対象病院では入院診療単価を上げるためには在院日数を短縮し病床回転率を上げると同時に、病床稼働率を高めるために新入院患者の獲得を行わなければならない。そのためには厚生労働省が公開しているDPCデータを活用し分析することで、地域における自院や周辺医療機関の疾患別シェアを把握する方法や、自院のDPCデータを活用した疾患別分析、医療の質評価、診療プロセス評価の実際について体系的に学ぶ。</p> <p>また、DPC制度に基づく診療報酬請求において、医業収益を高めるための診療情報管理、コーディング、精度管理に関する病院運営方法と病院経営者の役割について、講義およびディスカッション形式で学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(3 佐藤 大介/5回)</p> <p>診療報酬制度における急性期病院を中心に導入されている支払い方式であるDPC制度(DPC/PDPS)の設立経緯から最新の動向までの基礎的知識およびDPC制度の根幹となる診断群分類の考え方と構造について学ぶ。また、DPC方式に基づくDPCデータを用いて、地域の疾患別状況分析や、自院のDPCデータを活用した医療の質評価、コスト評価等の分析の実際について講義およびディスカッション形式にて学ぶ。</p> <p>後半では、科目「診療報酬・施設基準・関連法規」で修得した診療報酬に係る施設基準に関する知識を応用し、診療報酬データの分析結果に基づく算定状況および医業収益を高めるための施設基準の算定要件に関する考察について演習形式にて行う。</p> <p>(17 長面川さより/3回)</p> <p>DPC制度に基づく診療報酬請求において、医業収益を高めるための診療情報管理、コーディング、精度管理に関する病院運営方法について学ぶ。また、診療報酬に関する病床機能報告項目やNDB(ナショナルデータベース)等の関連性を基に、病院経営者が診療情報管理、コーディング、精度管理に関する医業収益確保の戦略の実例について学ぶとともに、病院運営における病院経営者の役割について、講義およびディスカッション形式で学ぶ。</p>	オムニバス方式
専門科目	基礎科目 医療情報・電子カルテ	<p>(概要) 病院経営において、電子カルテをはじめとした病院情報管理システムの活用と経営課題は重要な関係にある。医療情報システムにより医療の質向上、病院運営における業務効率化、患者の利便性向上が期待されるいっぽうで、病院運営に合わせたカスタマイズの積み重ねによる職員負担増や業務非効率化、過剰な投資による医業収益の圧迫等の経営課題に繋がるリスクも抱える。</p> <p>一方で、近年、地域医療において、住民に質の高い医療介護サービスを提供するため、患者の同意を得た上で、病院、診療所、薬局、訪問看護事業者、訪問介護事業者等の各関係機関において、その患者の医療介護情報を電子的に共有・閲覧できる仕組み地域医療情報連携ネットワークの活用が期待されている。</p> <p>本講義では、病院情報管理システムに関する基礎的知識および活用と課題の整理について講義形式による体系的に学ぶ。また、医療情報を取り扱う上で病院経営者が理解すべき情報管理の基本、医療情報における個人情報保護、情報セキュリティ、医療情報等に関する法制度について講義形式で学ぶ。</p> <p>後半では、これらの基礎的理解を踏まえた上で、自院における医療情報および病院情報管理システムに関する病院経営課題とその対応方策および地域医療情報連携ネットワークによる地域医療体制の在り方について、ディスカッション形式で修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 亀井 哲也/3回)</p> <p>病院情報管理システムや部門業務システムの基本機能や構成、システム運用等の基礎的知識および活用と課題の整理について講義形式により体系的に学ぶ。また、電子カルテの標準化や地域医療情報連携ネットワーク等について国の政策動向を踏まえて最新の事例を講義形式で学ぶ。</p> <p>(4 飯島 祥彦/2回)</p> <p>医療情報を取り扱う上で病院経営者が理解すべき情報管理の基礎的知識について、特に病院運営における個人情報保護、情報の二次利用の在り方、情報セキュリティ、診療記録と倫理、医療情報等に関する法制度について講義形式で学ぶ。また、情報漏洩、サイバー攻撃等への対応や、平時におけるインシデント予防策等、組織運営における実例に基づいた講義およびディスカッション形式で理解を深める。</p> <p>(16 平木 秀輔/3回)</p> <p>実際の病院における医療情報および病院情報管理システムに関する病院経営課題とその対応方策および地域医療情報連携ネットワークによる地域医療体制の在り方について、講義およびディスカッション形式で理解を深める。</p>	オムニバス方式
専門科目	基礎科目 医薬品・医療材料管理	<p>(概要) 病院経営において、医学や技術の進歩に伴い医薬品や医療材料にかかる費用が増加傾向にあるいっぽうで、診療報酬制度の医療費抑制政策により、医薬品や医療材料にかかるコストが病院経営に与える影響はますます大きくなっている。診療に欠かすことのできない医薬品や医療材料を安定かつ効率的に管理するためのマネジメントを修得することは病院経営者にとって重要な要素の一つである。</p> <p>本講義では、医薬品管理に関わる基礎的知識および関連法や、医療材料の管理および組織体制等のマネジメント方法について講義およびディスカッション形式で学ぶ。また、情報技術を活用した医薬品管理に関する取り組みについて、講義およびディスカッション形式にて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 山田 成樹/10回)</p> <p>医薬品管理に関わるリスクと安全対策、適正使用、未承認・適応外使用等や、医薬品マネジメントにおける診療報酬と償還価格、医薬品関連法規(麻薬取扱等)、手術室における医薬品管理の可視化等について、病院現場での実践方法を事例として取り上げ、体系的に理解することを目的とする。</p> <p>また、医療材料については、医療材料マネジメントサイクル、共同購買・価格交渉、SPDによる医療材料マネジメント、手術室における医療材料の可視化、滅菌管理、医療材料の在庫管理について、病院現場の実例や企業等の取り組み事例について、ゲストスピーカーを交えた講義およびディスカッション形式にて行う。</p> <p>(21 高橋 弘充/5回)</p> <p>情報技術を活用した医薬品管理に関わるリスクと安全対策や共同購入、医薬品管理の可視化等の実践方法について講義およびディスカッション形式で学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（医学研究科医療経営・管理学専攻（専門職大学院））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目 病院設計・施設設備	<p>（概要）病院経営を取り巻く環境が大きく変化することにより、病院の施設に求められる機能も変化している。医療情報技術の発展による病院運営のデジタル化、大規模災害や新興感染症等に対応するためのライフラインの確保や備蓄体制、BCPに基づいた施設設備の重要性は高まっている。また、医療技術の進歩による手術設備の強化、多職種によるチーム医療を実現する物理的環境、入院日数の短縮に伴う外来化学療法や日帰り手術の増加等、外来機能は、より高度化が進んでいる。病院建築や施設設備に関する課題は病院経営や戦略に直結するため、病院経営者が修得すべき重要な領域である。</p> <p>そこで本講義では、病院建築計画の基礎的知識である病院施設の全体計画、病棟計画、病室計画、外来計画、管理部門計画、供給部門計画等に加え建築マネジメントについて体系的に学ぶ。また、施設設備については、病院施設に求められる物理的環境要件や関連する空気調和設備、給排水衛生設備等、省エネルギー手法等について講義形式で学ぶ。</p> <p>講義では実際の病院建物の事例を取り扱い、病院建築および施設設備の観点から生じる経営課題や病院経営者の役割について講義およびディスカッション形式で行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（20 本田 孝子／6回） 病院建築計画の基礎的知識である病院施設の全体計画、病棟計画、病室計画、外来計画、管理部門計画、供給部門計画等に加え建築マネジメントについて体系的に学ぶ。また、施設設備については、病院施設に求められる物理的環境要件や関連する空気調和設備、給排水衛生設備等、省エネルギー手法等について講義形式で学ぶ。</p> <p>（1 小松本 悟／3回） 足利赤十字病院の実例を基に、実際の病院建物の事例を取り扱い、病院建築および施設設備の観点から生じる経営課題や病院長や経営幹部にとって病院建築におけるマネジメントおよびその役割について講義形式で行う。</p> <p>また、病院建築の際、工事費削減のため設備費を単に縮小させることがあるが、長期的にはライフサイクルコスト（LCC）を考慮してエネルギーコストやメンテナンスコストを意識した病院建築および施設設備が求められる。本講義では、病院経営の観点から見たエネルギーコスト等の病院建築マネジメントや、国内外の建築基準動向の観点から、次の時代に求められる国際基準レベルの病院建築の在り方について講義およびディスカッションを通じて病院経営者が修得すべき考え方について学ぶ。</p> <p>（3 佐藤 大介／6回） 病院建築計画を進める際の院内体制や委員会等の意思決定プロセス等の企画について学ぶ。特に病院建築においては多くの部門とニーズが存在するため、意思決定プロセスにおいても数多くの作業部会や合意形成を行う委員会等が重要な役割を果たす。これらを十分かつ適切に検討できる議論を重ね、意思決定を行うために必要な組織の作り方およびその考え方について、講義形式にて行う。</p>	オムニバス方式
専門科目	基礎科目 医療機能評価・JCI	<p>（概要）わが国の医療制度および文化ならびに社会経済的背景に関する保健医療状況を理解した上で、より良い医療の質の向上と健全な病院経営を両立させることで、保健医療に係る社会に貢献するために、国内外の第三者組織による認証は重要な経営戦略の1つである。</p> <p>本講義では、藤田医科大学病院が実践するJCI（Joint Commission International）制度を踏まえ、認証取得に向けた病院マネジメントおよび病院長の役割について講義形式で行う。さらに、認証取得後の更新に係る要件等に基づき、さらなる医療の質向上に向けた実践的取り組みについて講義形式にて行う。</p> <p>（1 小松本 悟／8回） 足利赤十字病院および藤田医科大学病院が実践する認証取得の経験を踏まえ、国内外の認証取得に向けた病院マネジメントおよび病院長の役割について講義形式で行う。</p> <p>前半は国内の代表的な認証機関である病院機能評価について、制度概要および認証基準ならびに認証取得に向けた取り組みや組織マネジメントについて講義形式で行う。</p> <p>後半は、国際認証の代表例であるJCI（Joint Commission International）制度について、JCIの考え方および臨床指標に対する取り組み方法、認証取得とその後の更新を見据えた医療の質向上に向けた病院マネジメントの実践的取り組みについて、講義形式にて行う。</p> <p>本講義では、国内外の認証に関わるゲストスピーカーを交え、国内外の認証取得に向けた病院マネジメントの実際について理解を深める。</p>	
専門科目	基礎科目 地域医療・医療マーケティング	<p>（概要）地域の住民に、その地域にてより良い医療を継続的に提供し続けることができ、患者満足度を最大化するためには、自院が地域における位置づけを明確にし、保健医療分野における患者や地域住民を起点に病院組織の戦略を考えるためのマーケティング戦略の理論は病院経営にとって重要な考え方である。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（14 真野 俊樹／6回） わが国の病院経営と関連するマーケティングの基礎的理論に加え、デジタル化の動き、行動変容、ブランド戦略、患者経験（PX）等について講義と議論形式にて行う。</p> <p>（8 松永 眞章／2回） 地域における高齢化の進展に伴う需要増に対応していくために、医療機関、都道府県・市町村、関係団体が一体となって地域の医療需要に応えることが求められている。</p> <p>本講義では人口動態調査、患者調査等の保健統計オープンデータを用いながら、地域医療の課題を分析するために必要な疫学・統計手法を講義し、公衆衛生学の専門的知見の観点から医療機関が担う地域（マーケット）である住民の健康状態に関する疾患別動向を概説する。また、保健統計オープンデータから分析した自院の地域での医療課題とその対応方策についてディスカッション形式にて理解を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（医学研究科医療経営・管理学専攻（専門職大学院））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基礎科目	医療の質管理・患者安全・倫理	<p>（概要）患者中心の理念に基づく最高水準の医療を提供するために、病院経営者が医療の質管理について組織的戦略的に取り組むことは、病院経営にとって必要不可欠である。病院全体が質の高い医療を提供し続けるためには、医療の質に関する理解、リーダーシップ、多職種による組織体制、戦略的計画、評価指標、データマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークを体系的に修得する必要がある。加えて医療安全管理においては、近年の患者安全に関する動向、報告制度、医療事故調査等、修得すべき範囲は広範囲に及ぶ。さらに医療機関は、先進的な医療技術開発も求められ、臨床研究を適正に推進することも要請されている。</p> <p>本科目では、近年における医療の現場で生じている安全管理に関する動向を理解し、必要性が高まりつつある先行的な改善を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。病院活動における医療安全および質改善体制とその機能に関する基礎的な知識を踏まえ、実際の事例を基にした患者安全質管理および研究倫理ガバナンスに関するシミュレーション等を用いた講義形式および演習形式を行う。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（9 安田 あゆ子／10回） 医療の質管理、患者安全に関する考え方と基礎的理論を踏まえ、病院で質の高い医療を提供し続けるための、リーダーシップ、多職種による組織体制構築、戦略的計画、評価指標とデータマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークの習得を実例も交え、体系的に行う。 患者安全に関する世界的動向、分析手法、関連法制度、医療事故調査制度、医療安全管理者の役割等について、実例も交えディスカッション形式にて行う。</p> <p>（4 飯島 祥彦／5回） 新規医療技術開発を行う医療機関が求められる研究倫理ガバナンスについて、関係法令・指針への理解を前提に、実例を提示した上で講義および事例に基づくディスカッション形式にて行う。研究不正の防止についても取り扱う。 医療機関、特に高度専門医療を提供する医療機関において、医療安全管理と密接な関連のある臨床倫理問題、研究倫理問題に関する事例を基軸に、研究倫理支援部門と医療安全部門との連携、臨床倫理支援と医療安全部門との連携基盤の構築等、臨床から研究までの倫理問題に対応し意思決定できる組織システムの在り方およびその実践方法について、講義および事例に基づくディスカッション形式にて行う。</p>	オムニバス方式
専門科目 基礎科目	医療制度概論（医療法）・保険医療制度	<p>（概要）我が国の世界に類を見ない少子高齢化社会および人口減少社会によって、地域における医療提供体制の変化に伴う医療機関を取り巻く環境は、これまで以上に複雑化している。たとえば地域住民の高齢化に伴う医療ニーズの変化への対応、医療技術の進歩やICT技術の発展等による病院管理方法の変化、複雑化する診療報酬制度等に対応する財務基盤および経営体制、働き方改革を踏まえた医療人材の安定的確保、人口減少地域における医療機能・診療体制の確保、新興感染症等の感染拡大や災害に対応できる危機管理能力、諸外国の医療機関等に対して競争力のある国際基準の医療の質の向上等、これからの病院経営は大きな変化の局面にある。</p> <p>本講義では、病院経営や将来の方向性に影響を受けるわが国の保険医療・介護制度の経緯を体系的に理解し、それらの課題と今後の方向性について理解を深めることを目的とする。具体的には1)医療計画、2)地域医療構想、3)外来機能の明確化・連携、4)地域包括ケアシステムを基軸として取り扱い、制度の理念、目的、評価指標、実施方法、現行制度の課題等の体系的理解を通じて、医療介護制度と病院経営の関係を論じることができる能力を身につける。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（2 三浦 公嗣／10回） わが国の保健医療制度および医療関連法規の基本体系を踏まえた、特に医師法、医療法、医療保険法、医事法を基軸とした地域医療を担う保険医療機関の役割や公的医療の財源等に関する法制度について体系的に制度を理解することを目的とした講義形式にて行う。 また、介護保険制度、地域包括ケアシステム、医療介護連携等に関する諸政策の動向について理解することを目的とした講義を行う。</p> <p>（3 佐藤 大介／2回） 将来の人口構造の変化を見据えた地域医療体制に向けた地域医療構想に関する考え方を基軸に、地域医療構想に関する議論の経緯およびその取り組みや政策動向ならびに地域における病院経営の関係を体系的に理解することを目的とした講義形式にて行う。 また、医師の働き方改革、医療計画、地域医療構想、外来機能の明確化に関する諸政策の動向について理解することを目的とした講義に基づくディスカッションを行う。</p> <p>（14 真野 俊樹／3回） OECD調査など公的機関のデータ、講師の豊富な海外経験・調査に基づき、①医療のレベル、②医療の身近さ、③投薬治療の状況、④医療の値段、⑤病院の環境、⑥高齢化対策の評価指標から欧米諸国と比較した日本の医療の現状を整理し、国際比較から見たわが国の今後の医療について体系的に理解することを目的とした講義形式にて行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科医療経営・管理学専攻(専門職大学院))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基礎科目	医療産業論	<p>(概要) 病院経営において効果が将来的に期待される先進的医療技術の開発およびその実現のために重要な産学連携について、制度規制や法令等の背景知識として必要なレギュラトリーサイエンスの基礎的知識について体系的に理解する。特に先進的医療技術の実用化に必須である薬事承認や関連法令を基軸に、先端医療技術開発の最新の動向について理解を深め、議論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/8回)</p> <p>(19 仁賀 建夫/4回) 先進的医療技術の開発およびその実現のために重要な産学連携について取り扱う。特に、わが国における産学連携の現状、医療技術開発のプロセス、医療技術開発で注目されている領域の国内外の動向について講義形式にて行う。</p> <p>(12 村川 修一/2回) レギュラトリーサイエンスの大枠(薬機法・FDA、QSR・QMS、利益相反、臨床研究法、安全保障輸出管理, etc.) から、産官学連携に必要となる戦略や病院が果たす役目を、個別・具体的な事例を織り交ぜながら、先端技術の社会実装に至るプロセスを講義形式により体系的に学ぶ。</p> <p>(14 真野 俊樹/2回) 日本の医療は、社会保障に位置付けられ、産業的な視点で語られることが少なかった。しかし、コロナ禍で、安全保障的な観点、例えば医薬品の安定供給、最先端の医療(例えばmRNAワクチン)といったものが国産でできなかったのか、といった議論も起きている。やはり最先端の製品があつてこそ、高度な医療を行えるという側面は避けて通れない。本講義では、医療産業という視点で日本の医療の問題について講義形式にて行う。</p>	オムニバス方式
専門科目 応用科目	病院経営の実際・病院再編統合	<p>(概要) 本科目は演習形式にて、実際の病院を事例とする教材を用いて、討論形式にて行う。実際の病院のある状況下で実際に起こった具体的な出来事を取り扱う「病院経営のケース」に基づき、教員が議論をリードし学生同士が対話を進めながら進行する手法(ケースメソッド方式)を用いて行う。議論や、ケースメソッド方式によるディスカッションを通じて、これまでに修得した病院経営戦略に関する分析力、洞察力、戦略構築力、論理的思考力等、病院経営者に必要な実践的能力を、一段高い見地への知的結実を図る。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(13 渋谷 明隆/6回) 病院の安全管理や有事の対応、地域における医療機関の役割等をテーマとした教材を用いて、長期的視点から地域の将来像を予測する能力や求められるトップリーダーとしての資質についてケースメソッド方式によるディスカッション形式にて行う。 本講義では、病院の人材マネジメント、組織行動、リーダーシップをテーマとした教材を用いて、病院経営に関する思考力および問題解決能力、多職種・他部門の視点に立った組織マネジメントについてケースメソッド方式によるディスカッション形式にて行う。</p> <p>(3 佐藤 大介/6回) 地域における医療機関の機能分化と地域連携を超えた、医療機関の再編統合等に関する教材を用いて、医療機能の集約化や再編統合等について取り扱う。特に開設主体が異なる病院の再編統合等に伴う設置趣旨・組織、会計制度・基準、関連規定の違いに伴う様々な障壁を例示し、開設主体の組み合わせによる再編統合等で生じる課題とその対応方法について、講義形式およびディスカッション形式にて行う。 特に1) 公立・公的医療機関の会計基準間のコンバージョンの可能性、2) 公立病院の再編統合に係る地方財政措置、3) 再編統合に際しての財務評価や借入処理等の手法について体系的に学ぶ。</p> <p>(18 武居 哲洋/1回) 横浜みなと赤十字病院の病院経営に係る課題の実例について講義形式にて行う。特に急性期病院における重症系病床の現状と今後の方向性を見据えた病院経営に関する実践的手法について講義およびディスカッション形式にて行う。</p> <p>(11 青木 昇/2回) 病院経営において生じる契約に関する事例について紹介し、病院が外部法人と契約を締結する際の留意点や実践的対応方法について、講義およびディスカッション形式にて行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（医学研究科医療経営・管理学専攻（専門職大学院））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用科目 実践的に考える組織・人材マネジメント	<p>（概要）2024年に施行する医師の働き方改革の影響等、健全な病院経営に人材マネジメントは必要不可欠な要素である。本科目における人材マネジメントとは、1)病院のビジョン・ミッション・戦略を実現するための人材活用の仕組みを整備すること、2)個人や組織に対する人の取組みのことを指す。</p> <p>病院組織は、医師以外の医療専門職および事務職等の多様な職種や人材とのチーム医療が求められるが、これはマネジメントにおいても同様である。病院経営を担う専門人材は、経営戦略を思考する能力に加え、他者の意見を聞く能力、自身の意見を明確に説明する技術、多職種の役割を理解し連携する実践力が求められる。</p> <p>本科目では、基礎科目「リーダーシップとガバナンス」「病院経営戦略論」を始めとしたこれまでの基礎科目で修得した知識や知見を踏まえ、病院経営の現場で生じる具体的課題のうち、特に、人や組織に関して、モチベーション、離職マネジメント、人材採用、働き方改革等に関する実際に起こった具体的な出来事を取り扱う。教育手法としては欧米のビジネススクール等で実施されている「ケースメソッド方式」を採用し、講師と受講生または受講生同士による議論を反復して行い、実践的なマネジメント手法を訓練していく。なお、教材は具体的事例に基づいた企業や病院のケースを用いる。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（15 斐 英洙／7回） 病院経営の現場で生じる職員のモチベーションや離職問題、組織コミュニケーション等、人材に関わる事象に関して、ケースメソッドを用いて学ぶ。病院経営やマネジメントに関わる管理者層が組織を効果的に動かすために必要なマネジメントエッセンス（採用、育成、配置・異動、評価、報酬、昇進・昇格等）を網羅的かつ多視点から掘り下げ、「自身が経営者ならばどう意思決定するか」を常に意識し、受講生自身の気づきや他受講生からの創発を誘発し、課題整理能力・解決策提案能力等を深めていくことを学ぶ。</p> <p>（22 緒方 大輔／4回） 医師の時間外労働規制に関する制度的背景を踏まえ、医療機関の水準の考え方および労働時間短縮に向けた職種別の方策に関する基礎的な知識を修得し、医療技術の進歩に伴う医療の高度化に対応できる多職種連携の取り組みや、病院経営における課題を踏まえ、病院組織の生産性を向上させるための内発的動機付けや組織改革等、働き方で選ばれるための病院組織マネジメントについて学ぶ。</p> <p>（23 栗田 かほる／4回） 人材マネジメントに関する職員のモチベーションや離職問題、コミュニケーションの円滑化、職種間コンフリクト、チーム医療、世代間ギャップ、人材育成、組織ガバナンス、他職種マネジメント等の病院のマネジメント現場が抱えるチームや組織の問題に関して、ケースディスカッションを通して学ぶ。</p>	オムニバス方式
専門科目	応用科目 多視点から考える総合経営	<p>（概要）病院経営において、地域の医療需要に応じた病院経営戦略は必要不可欠である。一方、地域における医療機関の機能分化が進む情勢においては、自院の医療機能とポジショニングを明確化するとともに、地域内の周辺医療機関等との地域医療連携は極めて重要な戦略の要素である。</p> <p>さらにこれまでの科目で修得した知識を統合して、幅広い視野から病院経営戦略フレームワーク、病院ブランディング、地域連携に関する実課題に応用する授業を行う。本科目では、ある状況下で実際に起こった具体的な出来事を取り扱う「ケース」に基づき、講師と受講生同士が対話を進めながら進行するケースメソッド方式による授業を行う。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（15 斐 英洙／7回） 基礎科目「病院経営戦略論」にて修得した医療経営に係る戦略目標の設定、環境分析、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コミュニケーション等の理論、組織全体としての最適化を図るための組織体制、オペレーション戦略等の戦略フレームワークを用いて考えていく。さらに、地域から選ばれるための病院に向けた病院ブランディングおよび地域医療連携の実践方法について議論する。講師と受講生、または受講生同士が対話や議論を進めながら進行するケースメソッド方式によるディスカッションを通じて、病院経営に関する総合的実践能力を修得する。</p> <p>（22 緒方 大輔／4回） 病院経営を担う病院長および経営幹部に最も重要な要素である病院経営者としてのリーダーシップと組織ガバナンスについての理論と実際について、幅広い視野から財務、医療の質、法の遵守等に関する基礎的知識を踏まえ、講師と受講生、または受講生同士が対話や議論を進めながら進行するケースメソッド方式によるディスカッションを通じて、病院経営に関する総合的実践能力を修得する。</p> <p>（23 栗田 かほる／4回） 本講義では、これまでの基礎科目等の講義を統合するために、医療経営で直面する諸問題について、ある状況下で実際に起こった具体的な出来事を取り扱う「病院経営のケース」に基づき、講師と受講生、または受講生同士が対話や議論を進めながら進行するケースメソッド方式によるディスカッションを通じて、病院経営に関する総合的実践能力を修得する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（医学研究科医療経営・管理学専攻（専門職大学院））			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	応用 科目 病院経営学・管理 学課題研究	<p>（概要）これまでの科目を総合し、学生が所属する医療機関の病院経営に関する学生自身の研究テーマを見出し、その研究過程ならびに結果に関して、後期においてその成果物を発表する。</p> <p>学生自身の研究テーマから研究課題を設定するために、医療機関にてフィールド実習を行い、病院経営の実際として、病院の施設設備、手術室管理、物流管理、看護師や薬剤師、リハビリテーション職等とのディスカッション等を現地にて実施する。研究課題は、病院経営分析と経営戦略の策定および各戦略における解決方法に関する研究とし、研究に必要な財務諸表やヒアリング等による定性的情報、市場分析等を用いて行う。授業では学生による研究課題に関する発表を順次行い、他の学生・教員とのディスカッションを重ねることで経営課題を深掘りし、病院経営戦略を自院の職員に説明できるプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>研究課題の評価は、「病院経営学・管理学課題研究中間報告会」および「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」を通じ、研究課題に基づく成果発表内容により評価を行う。特に優れた報告については学術誌や関連学会発表等への投稿を指導する。</p>	

学校法人藤田学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
藤田医科大学				藤田医科大学				
医学部				医学部				
医学科	120	—	720	医学科	120	—	720	
医療科学部				医療科学部				
医療検査学科	140	—	560	医療検査学科	140	—	560	
放射線学科	90	—	360	放射線学科	90	—	360	
保健衛生学部				保健衛生学部				
看護学科	135	—	540	看護学科	135	—	540	
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法専攻	70	—	280	理学療法専攻	70	—	280	
作業療法専攻	45	—	180	作業療法専攻	45	—	180	
計	600	—	2640	計	600	—	2640	
藤田医科大学大学院				藤田医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医科学専攻(M)	5	—	10	医科学専攻(M)	5	—	10	
				病院経営学・ 管理学専攻(P)	<u>10</u>	—	<u>20</u>	研究科の専攻 (専門職大学院)の設置 (認可申請)
医学専攻(D)	52	—	208	医学専攻(D)	52	—	208	
保健学研究科				保健学研究科				
保健学専攻(M)	50	—	100	保健学専攻(M)	50	—	100	
医療科学専攻(D)	8	—	24	医療科学専攻(D)	8	—	24	
計	115	—	342	計	<u>125</u>	—	<u>362</u>	